

CHALLENGE FOR FLL

School 1
Tamagawa Gakuen

学校からの 挑戦

学校法人

玉川学園

玉川学園ロボット部は、2007年以来、毎年FLLに出場しているベテランチーム。玉川学園は幼稚園から大学までの一貫校で、1〜4年生、5〜8年生、9〜12年生と、4年間ずつで校舎なども分かれる学年編成です。5年生から所属できるロボット部は広くて開放的な部室を持ち、FLL専用エリアまであるほどFLLに情熱を注いでいます。日々互いを刺激し合い、いつでもメンバー同士のコミュニケーションや練習を行える環境を活かし、チームワークを大切に活動を進めています。

現役生

あんどうはやヒ
安藤隼さん(中学3年生/2016年度・2017年度参加)

OB

いしいひでまさ
石井秀昌さん(東京大学2年生/2008年度~2011年度参加)
ひらやままさや
平山雅也さん(千葉工業大学3年生/2008年度~2011年度参加)

メンター

ありかわあつし
有川淳さん(玉川学園教諭)

現役生に聞く

お話を聞いた人

安藤隼さん 中学3年生

F L S Hは自由！ 成功と失敗を繰り返した先のチームワーク

——プログラミングをはじめたきっかけはなんですか？

8歳から12歳までアメリカにいて、夏休みに家族でレゴランドに遊びに行ったとき、マインドストームE V 3を買ってもらったことがきっかけでプログラミングをはじめました。インターネット上の動画共有サイトや書籍を参考に、独学で勉強していました。独学のいいところは期限がなく好きなようにやれること。締め切りもテストもありません。自由にできることが魅力だからこそ、好きにやるようになったんだと思います。

——F L S Hのチームではどんな役割を担当していますか？

プログラミングを担当しています。ぼくはプログラミングの経験もあつたし自然に決まりました。プログラミングは地道な作業で、細かい修正の繰り返しで地味ですが、成功したときは

とてもうれしいし、達成感があります。

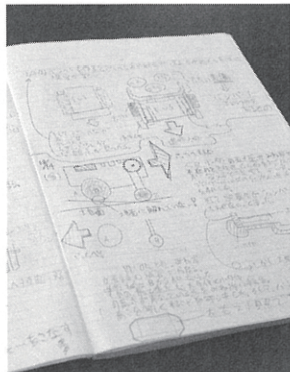
——チームはどんな雰囲気ですか？どのように活動を進めているか教えてください。

はじめはメンバーの予定が合わなくて練習が進まなかったり、まとまりがなかったのですが、だんだん個性がかみ合ってチームがまとまっていきました。やっぱり、みんな思いを持ってやっているので意見がぶつかるときはあります。そういうときはとことん話し合います。新しい意見やアイデアを言った人がみんなにもイメージを持ってもらうために、それを形にすることが多いです。はじめは全員で、ロボットもプレゼンテーションもコアバリューもすべてをくまなくやりますが、だんだんそれぞれの得意分野が現れ、役割が分かれていくといったチームメンバーの変化や成長もおもしろかったです。

——2017年のテーマは『Hydro Dynamics』（水の循環に関するプロジェクト）でしたが、どんなプロジェクトに取り組みましたか？

ぼくたちは飲み水の課題に向き合いました。アフリカなど、飲み水が行き届いていないところでどのように飲み水をつくることができるか考えました。リサーチをしていたら土の中にも水があることを知り、土から水が取れないかと考え、そのための装置をつくりました。土にその装置を

右／安藤さん
左／活動記録ノート



置いて、土の中の水を抽出してフィルターにかけて飲み水にするプロジェクトの提案をまとめました。

——チームのアイデアは、どのようにまとまりましたか？
『活動記録ノート』という、みんなのアイデアをまとめるノートがあります。例えばロボットについて話したかったらリーダーに議題を提案して、アイデアを出し合い、リーダーがまとめます。そのようなプロセスを通じて、チームがうまくまとまるにはメリハリをつけることが大事であることを学びました。遊んだりふざけてしまったりして思うように活動が進まないときもあったのですが、遊ぶ時間と練習する時間を分けて、メリハリをつけてからはかなりうまく進みました。